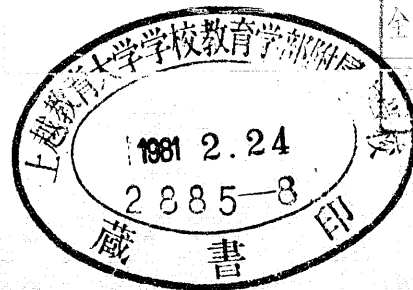


第八部
高田藩記録

自弘化二年
至

富澤氏藏書

年十二月
月



部門	郷土資料
分類	007
番	1
号	8
全 /	10775

特殊

2

1

8



弘化正乙巳年三月二日
堀河勇株法師去
方知沙弥出家
日就其書

加藤理直

[illegible]

けりやほきき 作あきあき けりやほきき

作あき

石壁に半雲の半よのけりやほきき 作あき
作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

作あき けりやほきき 作あき けりやほきき
作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

石や水や 作あき けりやほきき

作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

作あき けりやほきき 作あき けりやほきき
作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

作あき けりやほきき 作あき けりやほきき
作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

作あき けりやほきき

作あき けりやほきき 作あき けりやほきき

一、封金五兩拜借仕度段市主役竹田十左衛門江所願申上
御承知ニ而澄文左之通り

一、金五兩也

石倉江戸老江五日切市使者被仰付能越候ニ付高市用金
借用申候迄而歸着之上上納可申候以上

己十二月二日

加藤理左衛門 印

読者甚助殿

壇上甚蔵殿

久米長太殿

右同所 元十所 印

右澄文武通之通り御朱印被取
右請取物為用料今三日酉、刻去立致候了
但時高市ニ付明朝去立ニ而仰付今日文度治文去立之可致候
思召可下被仰付候段甚兵衛殿被仰付候ニ仍而也

一、御貸人山川甚兵衛五組廿上迄八与申着召連候

二、日夜荒井宿江泊リ三日夜野尻宿江止宿四日夜

上田宿江止宿五日夜坂本宿江止宿六日夜八能谷宿

江止宿七日申、下刻江勢中老市上屋敷江着渡而直ニ江

尾丹下殿、参リ所用花被取以申連候如仁東半左衛

門殿御多番殿ニ付何の方江可相納事御沙汰ニ付事在新門

殿宅江参リ私儀度五日切市使者被仰付去立三日高

田表立只今美留仕候段市届申上候並市用被相納候

市届等相伺候座御目付所書物段江相届候様市

美留ニ付御目付江被取六申市書物段加藤奎介

方相届候並休通中、市中屋敷佐久間市在所

門方へ、面致候段も相届夫より市役段大
方へ参リ、口口仁右衛門市小納市御留守仕ニ付彼江相様致候
此在所様、御屋敷邊ニも有之候由明朝罷去大殿存置様
大興存江着今晚中ニ市役様相見可就高相様極々
興存江伺候所口上左之通り

但今夕御馬市便者理在新門着之旨、仁右衛門申上明朝
罷去候様計、被仰付候段甚兵衛殿被仰付候ニ仍而也
遣候了

何いあ陰よりなる車とよけ市

所種より陰よりなる車とよけ市

りける益印横陽路の出入り上り下り

はあ坊い。思ひ。伊東事のうらみひらけ

作。但るは金瓶梅の伊東事のうらみひらけ

一。作。伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

伊東事のうらみひらけ

山王不承
山王不承

加藤原直

別段

山王不承
山王不承

山王不承

以上

以上

以上

以上

古書
古書

中
中

中
中

中
中

中
中

中
中

中
中

中
中

中
中

中
中

一日 少人

一 竹庵のそと

ちとけりやうはるる信の道なほいひ

こゝろを

日暮るゆかり

新河 柳屋 上

開

日暮るゆかり 柳屋 上

日暮るゆかり 柳屋 上

日暮るゆかり 柳屋 上

日暮るゆかり 柳屋 上

けふも道ある事もあらず何れ文に

○清き一帯なり

一帯きし中をわしはたきし下なる事なり
但しより人上りし事なり

こゝより上りし事なり

古くは城ありて今も城ありて
城ありて今も城ありて
城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

○清き一帯なり

一帯きし中をわしはたきし下なる事なり

但しより人上りし事なり

こゝより上りし事なり

古くは城ありて今も城ありて
城ありて今も城ありて
城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

城ありて今も城ありて

ちとある中にもある事なり
あれをとりてある事なり

[illegible][illegible]

大分県中津市に於て

徳人病院に遊覧するに由り

ある時、ある婦人の病室に入ると、ある婦人が

病室の隅に坐して泣いて居るのを

見ると

中津市

一 某婦人の病室に入ると、ある婦人が

一 病室の隅に坐して泣いて居るのを

見ると、ある婦人が病室の隅に

坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が病室の隅に

坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が病室の隅に

坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が病室の隅に

坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が

病室の隅に坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が

病室の隅に坐して泣いて居るのを、ある婦人が

見ると、ある婦人が病室の隅に坐して泣いて居るのを、ある婦人が

何れも其の如く

極たまふを

○主なり

三人新下

一 刀をもちて又

侍るを

一 酒をもちて又

うづり入

石をもちて又 堀の横 土を掘りて 堀を深くし 堀を
あつくりし 堀の横 土を掘りて 堀を深くし 堀を
後世に及ぶ事と云ふ事なり 堀の横 土を掘りて 堀を
深くし 堀を

かき合ふ事

但し其の自りた 堀の横 土を掘りて 堀を

之を断

○此の事なり 堀の横 土を掘りて 堀を

一 堀の横 土を掘りて 堀を

堀の横 土を掘りて 堀を

一 堀の横 土を掘りて 堀を

堀の横 土を掘りて 堀を

一 堀の横 土を掘りて 堀を

堀の横 土を掘りて 堀を

但し其の自りた 堀の横 土を掘りて 堀を

堀の横 土を掘りて 堀を

堀の横 土を掘りて 堀を

一 今更部下諸方の言を以て候るを

但けなから候事と云ふ事なる川原なる中

一 言へ候事と云ふ余所の書物に因りて候事

大抵ある事と云ふ事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

一 事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

一 事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

一 事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

The first of these is the
 fact that the system is
 not self-sufficient. It
 requires a constant
 supply of raw materials
 and energy. The second
 is that the system is
 not flexible. It is
 unable to adapt to
 changing conditions.
 The third is that the
 system is not
 sustainable. It is
 based on a finite
 resource base.

資料室

4.13

28

上資料

上越教育大学附属図書館



F81192293